令和 2年 2月 4日

豊明市議会議長 殿

豊明市議事課
2. 2. -4
分類 30·10·5·1
可·否·一部否·一時否
第 37 号 受付

行政等視察報告書

議員名　ふじえ 真理子

令和元年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
令和2年 1月 30 日（木） ～31 日（金）	学校法人茂来学園 大日向小学校 （長野県南佐久郡 佐久穂町）	別紙のとおり

（注）別紙添付も可能とします。
（注）本報告書は5年間公開します。

【視察報告書】

日程 令和2年1月30日（木）～31日（金）

豊明市議会議員 ふじえ真理子

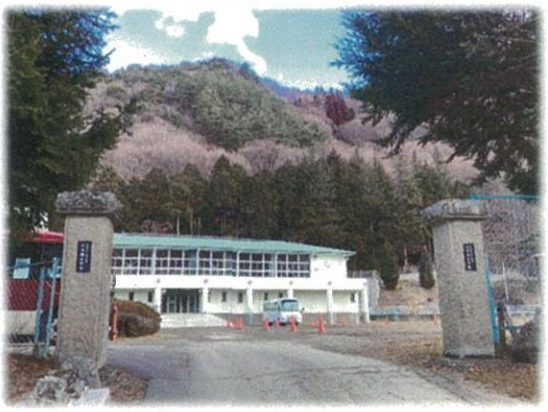
視察先：学校法人 茂来学園 大日向小学校（長野県南佐久郡佐久穂町大日向 1110）

視察日：令和2年1月31日（金）

視察の流れ：
10:00 現地集合、ガイダンス
10:45 校舎案内
11:15 ブロックアワー見学
12:05 学校ごはん（大日向食堂でランチ）
13:10 ワールドオリエンテーション見学
14:00 催し見学
14:45 振り返り
15:00 現地解散

■目的

日本で初めてイエナプラン教育に基づく小学校を見学し、新たな価値観の実践現場を肌で感じ取りながら、一人ひとりの個性を尊重する公教育につながるヒントを得るため。



■内容

○大日向小学校（私立）の概要

・「子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、多様な人々と協働しながら世界に目を向けて主体的に学ぶ教育環境を築くこと」を大切にした、日本で初めてのイエナプランスクール認定校。統廃合で廃校となった小学校を一部改修し、2019年4月に開校。 校舎は3階建て。体育館と大日向食堂は廊下でつながっている。

・児童数 74人、54家族。うち40家族が他からの移住。隣りの佐久市からスクールバスで通う。

・下学年（1～3年生が交ざった）クラスが2つ、上学年（4～6年生が交ざった）クラスが1つの計3クラスを12人の教職員で運営

・佐久穂町（人口約1.1万人）には他に公立の小中一貫校1校がある。

○大切にしていること

①自立する…個々の発達や個性に合わせた学びを大切にして学びに対する当事者意識を育む

②共に生きる…異年齢での活動を重視。多様な人たちが共に生きるにはどうしたらよいかを毎

日の学校生活の中で学ぶ

③世界に目を向ける…現実にあるものに触れ、社会の一員であることを実感し世界で起きていることに責任をもって関わる

〇イエナプラン教育のコンセプト　{20の原則}

〇地域との関係

休耕田でプルーン栽培、学童保育で木工教室、大日向食堂の地域開放など

〇チャイムはない。

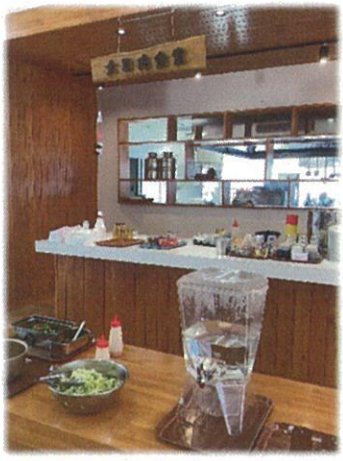
〇教室内の机の配置は4人1グループが5～6つあり、輪になって話せる長いす（ベンチ）も用意。

〇週の初めに先生（グループリーダー）が示した1週間の課題を、毎日2回あるブロックアワーの時間に、自分で立てた計画に沿って取り組む

〇自分が設定（例：漢字ドリル何ページ）した課題を終えれば、同じグループのわからない子に教えたり、床に座って漫画（歴史）を読んだり、パソコンを触っていたり、友達とカルタをしたり、図書室へ行って好きな本を寝そべって読んでいたり、廊下（畳スペースがある）で好きなことをしたり…それをあたたかく見守り、その子にあった声かけをするグループリーダー（先生）。

■所感

・社会に出れば異年齢集団が当たり前ということで、下学年（1～3年生）と上学年（4～6年生）の2つに分けていた。胸に名札はない。見学者には、はっきりとは学年の区別はわからないが違和感は全くない。問題をじっと見て黙々と考える子もいれば、タブレットを使って漢字を学んでいる子、好きな場所で本を読んでいる子、子ども同士で教え合っている子…教室はざわついていない。



・先生を「〇〇さん」と名前で呼ぶ点、食堂では自分の食べる量を自分でよそい、自分が好きな場所で自分の好きな人と食べる。全員が着席して一斉に「いただきます」号令がないこと。私のような外部者がいても気にすることなく自分のやるべきこと・やりたいことに取り組む子どもたち。チャイムが鳴らないため、時計を見ながら自分で行動。教室内で帽子をかぶっている子や腕時計をはめている子、のどが乾いた時に持参した水筒を自分の判断で自由に飲み、体育館で遊んでいるときのイキイキとした表情……どれを見ても、自分が育った30～40年前とは全く違い、当時の管理教育の名残がまだある豊明での学校教育との差を肌で実感した。

・「小さな社会としての学校」という位置づけと同時に、「理想な社会を学校でつくる」という意識は、学校で過ごすあらゆる場面において貫かれていることがよくわかった。

・「個性を尊重」「共生」「共に学ぶ」などの言葉は豊明でも何度もいろんな場面で聞いたり見たりはするが、この学校で実践（挑戦）していることはすごい。凝り固まった価値観を解きほぐすという意味で大人も学べる学校だと思った。

・豊明市では「協同の学び」を推進、グループワークも取り入れた授業を行っている。学習面だけでなく生活の面でも、子どもと大人、また子ども同士の対話を重視し、子どもが学ぶ選択肢を保障する、その環境づくりは大人の責任だと思う。
・学校が社会とつながっていることを常に意識しており、一人ひとり異なる好奇心や探究心をくすぐる、また引き出す大人の問いかけ（タイミング）はさすがだなと思った。私は教育の専門家ではないが、もし今、学齢期の子どもがいたら通わせたいと思える学校。
・開校してまだ1年足らず。大人たちも悩みながらとことん対話や議論を尽くし、子どもたちそれぞれの「できた！」を教職員全員が共有して成長を見守っているのを感じた。
・1～6年生共通のテーマ「尊厳ってなんだろう？」を5～6週間かけて対話しながら学んでいた。
・映画『いろとりどりの親子』を教材に「ふつうってなんだろう」…正解のない答えを多様な子ども同士で、子どもと大人で一緒に考える、互いを認め合う。こうしたチャレンジを見て私も勇気をもらえた。
・「学校をつくるのがゴールではない。イエナプラン教育のコンセプトをいかに体現するか。〇〇やってればいいや、じゃない」その通りだと思う。
・地域の人たちから最初は「子どもたちが私学にとられてしまう」という声もあったというが、先日、農業従事者が集まる会議の中で「食堂があるおかげで農業の生産量がアップした」という地元の喜びの声を聞いたという。「地域のやりたいことにのまれないこと」「地域のことを地域の方たちに教えてもらって学びに活かすのが我々の仕事」。地域との関わり方のスタンスが明確。
・子どもたちは自分で決めた目標を達成できたら自分で好きなシールを貼る（自分でチェックし達成感）。単元テストで自分の習熟度を自ら確認。「教えているとわからないけれど、回って一人ひとりを見ているとその子が何にどこでつまずいているのかがわかる」との言葉は印象に残った。
・助けてほしいときに「助けて！」といえることが自律につながる。大人も同じだと思う。
・校長室はない。スタッフミーティイングは密に行われている。大人はスマホをもち、チャットで1階・2階の子どもたちで気になることがあればその様子を全職員がリアルタイムで情報共有。
・いつどのように学ぶかは、子どもに選択権がある。
・入学の基準は「家族全員が幸せになるか」。子どもだけでなく家族全員の幸せを考えている。
・日本のイエナプランをつくっていく。佐久穂町に合ったイエナプランの学校をつくっていく。
・みんなで子どもをみる
・1～6年生共通のテーマが掲げられていた。「尊厳って何だろう」。目の前の現実からスタートし、それぞれの子どもにとっての今の時点のゴールを目指す。出産一つにしてもみんな多様であると感じる時間。　うまれる、じゃどう生きるの？　インプット⇔振り返り
・昨年秋に長野県を襲った大型台風は、子どもたちにとって社会（世界）とつながる絶好の教材。探究心。
・美しく綺麗に見せるではなく、その子その子の「できた！」をみんなで共有、わかちあうことを重視。
・学校は未完成。

■学んだことを本市でどう活かすか

・以前から気になっていた中学校の校則（生徒心得）について、次回の一般質問で取り上げるため準備をしている。これまで自分が育ってきた当たり前の価値観を一旦横に置き、目の前にいる子どもと、これからの子どもたちにとって必要となる「生きていく力」を育む教育のあり方について、根本的なところから問い、考えたい。

イエナプラン教育の考え方（一人ひとりの個性を尊重、互いに学び合い、社会と繋がっていることを学ぶ教育）は、「ふつうってなんだろう？」と問い直そうとするとき、大いに参考になる。学んだことを地域の中で議会で活かしたい。

・見学プログラム参加者の中には、現役の学校の先生をはじめ、イエナプラン教育を取り入れた公立学校を今年4月に開校する予定でその準備に奔走している先生もいらっしゃった。時間をかけてこれからの日本の公教育の選択肢の一つとして、ジワジワと広がっていくと感じた。

・子どもをこのような学校に通わせたい、障がいの有無関係なく一人ひとりの個性が本当の意味で尊重される学校（社会）であれば、そのまちに住みたくなる、住み続けたくなる。そうした環境で育った子どもたちが30年、40年後に豊明のまちを、社会を、日本を、世界を創っていく。豊明に合った形で“子どもを真ん中においた”学校文化を根付かせていけたらと願う。

・大日向小学校の実例の紹介と、公立学校でも導入の動きがジワジワ広がっていることとその背景。更には豊明の（学校）教育はどこに向かおうとしているのか、できることは何かを多様な人たちと一緒に考え、学び、対話しながら具体的に動いていくための第一歩として、まずは、今回の視察についての報告会を開催しようと思う。

<おわりに>

大変お世話になりました大日向小学校関係者のみなさま、縁あって当日一緒に見学させていただいた方々、短い時間の中でも多くの深い学びをありがとうございました。